

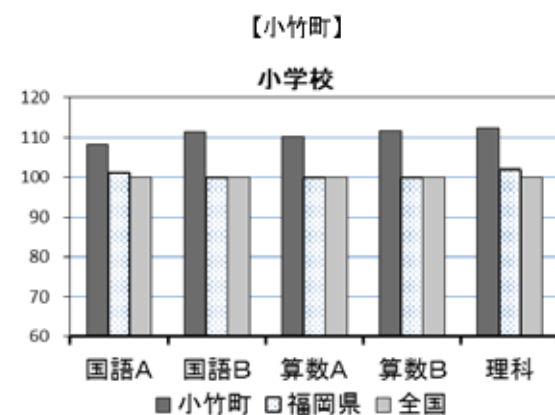


特集

“確かな学力” 育成のまち

小竹町では、予測困難な社会に主体的に関わり、自ら考え、自らの可能性を発揮し、未来を創り出すたくましい子どもを育てるため、『こたけ「つながる」学びのプロジェクト』を推進しています。小・中学校、地域、家庭および専門機関がつながり、一人ひとりの個性等に応じた、きめ細やかな学習指導、学校間における学力向上策の共有など、確かな学力の定着に向けて、組織的・協働的に取り組んでいます。

平成30年度全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果について



中学校は、公表対象外 ※1校のため

※福岡県教育委員会発行「平成30年度全国学力・学習状況調査福岡県学力調査 調査結果報告書」より抜粋

※標準化得点は各年度の全国の平均正答数をそれぞれ100となるよう標準化した得点のこと。

02 全国学力・学習状況調査からみる 優秀な学力の小竹っ子たち

文部科学省が昨年4月に実施した平成30年度全国学力・学習状況調査。小学6年生と中学3年生を対象に、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証する調査で、学校での教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる目的で行われています。

今年の本調査結果から、小竹町の平均正答率

は、小学校が全教科とも県・全国平均を著しく上回っており、県内でも上位の成績です。中学校は、県・全国平均を国語A・B、理科の各教科とも上回り、数学Aがやや下回り、数学Bがほぼ同程度です。

全校連携の組織的取り組みと、優れた教職員によるきめ細やかな学習指導等が確かな学力の向上へと成果をあげています。

01 “確かな学力”の育成に向けた 小竹町の取り組み

小竹町では、継続的かつ効果的な学力向上の取り組みを推進するため、「学力向上検証委員会」を設置しています。本委員会は、確かな学力の育成を目指した指導方法の工夫改善はもとより、小・中学校それぞれが抱える課題を共有し、小中連携の教育活動の充実を図っています。また、小・中学校の接続を円滑にするためにノート指導や板書の仕方

の統一、町独自の共通問題集の作成編集等を行っています。

さらに、福岡県重点課題研究指定・委嘱を受けて、平成28年度から3年間、町内小中学校の教職員が連携して研究を進めてきました。

研究課題として、「新たな不登校を生まない取り組み」と「不登校の兆候を示す児童生徒および不登校が継続している児童生徒への個別の支援の取り組み」を総

合的かつ組織的に実践しました。その一つは、学習過程を統一し、日々の授業の中に生徒指導の3つの留意点（自己決定・共感的人間関係・自己存在感）や手立てを位置づけ、9年間を見通した小中合同の授業づくりに取り組みました。すべての子どもたちに「出番」があり、一人ひとりの子どもが、授業で自分の考えを持ち（自己決定）、それをみんなで交流することで、互いに相手を受容し（共感的人間関係）、授業を振り返る中で学ぶ楽しさや成

就感を味わう（自己存在感）ことができます。伸び伸びと活動できる「心の居場所づくり」や協働活動を通して生まれる「絆づくり」を目指し、子どもたちの自尊感情や学習意欲を高めていきます。この取り組みは、不登校の未然防止だけでなく、学力向上にもつながっていきます。

03 福岡県とびうめ教育表彰 「確かな学力の育成」優秀校

福岡県教育委員会が公立学校の優れた教育活動を顕彰する「平成30年度福岡県とびうめ教育表彰」。

小竹北小学校が市町村立学校部門の「確かな学力の育成」優秀校として選ばれました。

新設され、①確かな学力の育成②豊かな心の育成③健全な体の育成④障がいのある児童生徒の自立や社会参加⑤信頼される学校づくりに向けた、育成や学校経営・運営を観点に、いずれか一つ以上において、当該学校の実態に応じた効果をあげる工



△1月7日、表彰式が行われ、北小学校 塩川英治校長に
県教育委員会城戸教育長から表彰状が授与されました。

夫のもとに特色ある取り組みを継続して行い、その成果が顕著な市町村立学校を表彰するものです。本年度は14校の応募の中から3校が優秀校に選ばれています。

北小学校は、過去5年間の全国学力・学習状況調査の結果が著しく上昇傾向である点も評価の一つです。学力向上に向けて、「学習基盤づくりの徹底と思考力・判断力・表現力の育成(主体的に学び合いをしよう)」を重点目標と定め、漢字学習やパソコン上でことわざや都道府県の図などを次々と見せて集中力や判断力を高める「フラッシュ」音読、計算等の取り組みも行ってきました。また、全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査の分析等を全教職員で行うことで、課題等の共通理解ができ、組織的・協働的な授業改善に取り組むことができました。その結果、基礎基本の確実な定着につながっていきます。

南・西小学校、中学校も、同様の確かな学力の育成に向けた教育活動を学校の特色にあわせて取り組んでいます。

05 学力向上推進の取り組み 管内小学校の研修受入校に

2月7日、小竹南小学校で、北九州教育事務所が主管する小学校市町間交流研修が行われました。

北九州教育事務所管内にある47小学校の中で、2校のうち、1校の研修受入校に小竹南小学校が選ばれました(研修受入校は学力向上推進の取り組みが円滑かつ効果的に行われ、意図的・計画的な検証改善サイクルを確立し、成果をあげていると認められる小学校のことです)。

本研修は、管内の小学校教育員が、南小学校の組織的・協働的な取り組みに対して、どのように学力につなげているのかを参観・協議を行い、効果的な学習指導の在り方等を図るためです。

校内教育活動の参観では、①自分から大きな声であいさつをする②皆と元気に遊んでいる③おしゃべりをせずに掃除をする④スキルタイム(補充学習)は集中して学習をする⑤主体的に授業

を受ける等、日頃の子どもの姿を見てもらいました。

参観された直方市立直方東小学校の教諭は、「落ち着いた子どもたちでした。一般的に高学年になるにつれて、一生懸命に取り組む姿がかっこ悪いといった間違った捉え方をする子もいるので、いつも指導に悩みます。南小学校の子どもたちは、積極的で一生懸命に取り組む姿がとても素晴らしかったです。」と話してくれました。

黙働掃除で、
豊かな心を育む子どもたち



スキルタイム(補充学習)に
集中して臨む子どもたち



主体的に授業を受け、
学ぶ楽しさを実感する子どもたち



04 小竹中学校の独自の取り組み 学力向上を目指して『暗記特訓』を実施！

「暗記特訓」は、社会・理科・英語の教科ごとに、年間を通した課題を準備し、各学年が毎週1時間の学習を行っています。この学習は、静かな状況で集中して学習する力を育み、基礎・基本となる用語や事項を確実に定着させるため、学力向上を目指した独自の取り組みです。

内容の定着を図るため「暗記特訓大会」を実施。生徒たちの学習意欲を高めるために、正答率で順位を出し、学年ごとに上位を張り出しています。



06 きめ細かな学習指導は 学習内容の理解が進む

町内小学校は小規模校・少人数学級です。だからこそ、一人ひとりの学習状況や学習内容を的確に把握ができ、個々に応じたきめ細かな学習指導が徹底されています。しかし、クラス替えがないため、競争心が生まれにくい、多様な考え方や学びあいの機会が少なくやすいなどの指摘もあります。

少人数学級を補完するために、運動会やふれあい給食などのさまざまな活動を近接学年での合同学習や異学年集団活動を行っています。この取り組みは、社会性や対人関係能力を高めていきます。



異学年集団活動でふれあい給食